

5 本時の計画

(1) ねらい

間接疑問文の特徴やきまりについて理解することができる。 [知識・技能]

(2) 学習過程 (本時 1 / 10)

過程	思考の流れと学習活動の流れ	時間	指導の手立て ◇ICTの活用 評価
導	1 warm-upで既習事項の復習をする。 例) What subject does he want to study ?	5	・学習内容の定着を図るために、ミニティーチャーを活躍させる。
入	2 「人物当てゲーム」を行う中で間接疑問文の入った英文を聞き、これまで学習した疑問文との違いに気付く。 例) Do you know where he lives ? Do you know when he was born ?	5	◇既習表現 (疑問詞が文頭にくる、「疑問詞+to+動詞の原形」) とのずれに気付かせるために、キーワードごとに色分けしたスライドを電子黒板に投影し、視覚的に捉えられるようにする。
展	3 新出文法を確認し、パターンプラクティスを行う。	8	◇スモールステップで達成感を味わわせるために、語句→英文の順番で少しずつ電子黒板に投影する。
	4 Wake Up Game (単語の並べかえ活動) を通して間接疑問文の語順を確認する。	10	・グループ活動がうまくいくように、つまづいているグループには黒板のセンテンスカードに着目するように指示する。
開	5 間接疑問文を用いた「人物当てゲーム」をする。 ① (グループ) 質問の仕方を確認した後、グループ内で「人物当てゲーム」をする。 ② (全体) 全体で「人物当てゲーム」をする。 ③ (個) 活動のまとめとして、間接疑問文を用いた質問文をワークシートに書く。	19	・発言回数を多くするために、グループで練習する場を設ける。 ◇答えとなる画像と情報カードを一度に提示するために、タブレットの発表ノートを活用する。
	6 本時の学習を振り返る。	3	◇全体で振り返りを共有するために、タブレットに入力した振り返りを電子黒板に投影する。 ・生徒数名を指名して振り返りを発表させ、本時の頑張りを称揚して次時への意欲付けを図る。 ・学習を通しての自分の変容が自覚できるように、視点を示して振り返るようにする。
整	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>文中の「～を」の位置に疑問詞のかたまりを入れることができるとわかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>文中に疑問詞が入ると、その後は主語→動詞の語順に変わることがわかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>疑問詞の後にはdoやdoesを入れないことがわかった。</p> </div> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>間接疑問文の特徴、きまりである『疑問詞+主語+動詞』の文を用いて、情報をたずねたり伝え合ったりしている。 (観察、ワークシート)</p> </div>

(3) 授業研究の視点

- ・秋田の探究型授業を自立的に進めるための手立ては適切であったか。
- ・授業の各段階におけるICTの活用は効果的であったか。